進路だより

鶴見養護学校
地域連携グループ進路係
第４号
令和３年 12 月 24 日発行

ぐっと気温も下がり、すっかり冬らしくなりました。手洗いや消毒などの感染症対策をしながら、勉強を進めていけたらと思います。さて、今回の進路だよりでは、現場実習や校内実習の報告会の様子を中心にお伝えしていきます。

本校実習報告会

本校では、毎年３学年揃って実習報告会を行っていましたが、今年度は各学年分かれて実施しました。実習の目標を振り返り、できた事や、楽しかったことを発表しました。３年生の報告会では、現場実習に行った際の写真を使用しながら、目標に対する結果や、頑張ったこと、職員さんにアドバイスされたことを発表したり、これからの改善策を話したりしました。何事も目標を立てるだけではなく、振り返り次につなげていくことが大切なのだと感じた報告会でした。来年度は３学年揃っての報告会が実施出来るといいなと思います。

分教室進路報告会

分教室でも、１・２・３年合同実習報告会が行われました。１年生は校内実習、２・３年生は現場実習と校内実習の様子を一人ひとり発表しました。目標に対する振り返りの場面では、「もっと相手の目を見て報告できると良かった」「声を大きく聞こえるように」「メモをその場でとる」など、各々が感じたことを素直に表現していました。現場実習の報告では、飲食店や運輸会社等、見聞きしたことのある企業が登場すると下級生たちの関心もぐっと高まり、活発な質問が飛び出しました。中には「校内実習中に指摘された課題で、現場実習に活かされたことはありましたか？」といった鋭い質問もあり、応答する先輩も一生懸命答えていました。実習中に教わったり、自分で気が付いたりした課題は、より素敵な社会人になるための宝物とも言えます。実習中だけでなく、これからも意識してほしいと思います。

実習先の方々のお話から

「“進路先が決まる” のは、ゴールをしたということではなく、長く働く目的を果たすための一つの目標を達成したということ。」これは、実習先の方々とお話しする中でお聞きした言葉です。では、長く働くためには必要なことは何か。それは、『生活リズムを整え、健康管理をすること』『自分でやろうという気持ちを持つこと』。いくら働きたいという意欲があっても体調を崩したら働くことができません。いつもやってもらってばかりだと、いつまで経っても身につかず、精神的な自立や意欲が育ちません。作業の質は支援や経験で伸びていきますが、生活の基本的習慣は今の日常生活から形づくられてきます。進路に向けてではなく、自分自身のこれからの人生のために多くの経験をし、気付き、生活し、その時々の自分に襷をつなげて社会人へと歩みを進めていってほしいと思います。

インターンシップについて

分教室１、２年生の学習活動として、インターンシップ活動を行っています。
今年度は、飲食を伴わないように午前中のみの活動とし、年３、４回、港北スポーツセンター、おうち CO-OP、(有)エス・イー・ディーにて仕事の体験活動を行っています。また、今年度より新しく、クリーニング業務を行っている(有)耀でのインターンシップ活動も行っています。
生徒３～６名に対して教員１名が付き添い、企業での職業体験活動をしています。具体的な活動としては、次の通りです。

・港北スポーツセンター…落ち葉履きや雑草抜き等の外清掃、施設設備の入れ替え作業
・おうち CO-OP…リサイクル品やチラシの分別、保冷材の運搬等の作業
・(有)エス・イー・ディー…ナツメ球の袋詰め等の軽作業
・(有)耀…プレス済みのナプキンの仕分けや等

このインターンシップ活動を通して、働く態度や心構えを学んだり、インターンシップ先の決まりを理解して社会人としての態度を学んだり、自分の進路について考えるきっかけにして欲しいと思います。

☺�☺☹☺　進路のつぶやき「自分で決めよう」　☺☹☺�☺

前回のつぶやき「やってみれば？」にもつながりますが、私たちは常に選択・決定・チャレンジを繰り返しています。「自己選択・自己決定」の大切さは誰もが知るところですが、実際には難しい…と感じている方も多いのではないでしょうか。

子どもたちが自分の意思を決定していくためには、小さな頃から選択したり決定したりする経験を積むことがとても大切です。答えが予測できることでも「どっちにする？」と提示することで、「選ぶ→実現する→達成感」という自己実現のためのプロセスを体得していくことになります。もちろん、選択しても実現しなかった・うまくいかなかったということも必ずあるはずですが、次の選択の際の参考にしたり、気持ちを切り替えたくましく立ち直る力にしたりと、プラスの経験として積み重ねていくことが人生には必要不可欠だと思います。

子どもたちに意思決定を促す際のポイントがいくつかあります。まずは「情報提供」です。「こっちに行ったら電車が見られるよ」とか「それを買ったら他のものは買えないかもしれないね」など、本人が決める際の「参考になること」や「選択による影響」などを伝えると、子どもたちも色々なことが決めやすいと思います。もう一つは「意思決定支援と相談」です。例えば、表情や動作などちょっとした変化に気づくことで、子どもたちの意思を大切にすることができます。本人のこれまでの選択の傾向や性格などから「きっとこういう選択をする」と推測することも、立派な意思決定支援です。また、誰でも大きな決断をする時は、きっと誰かに相談しているのではないでしょうか。自分から相談できる、相談に乗ってくれる人がいるということは、よりよい選択や決定につながり、人生を豊かにしてくれるはずです。そしてもう一つ「責任を持たせる」ということ。意思を決めて選択すれば、そこには責任が生じます。選ばない責任や選んで失敗した責任もあるでしょう。本人が決めたのに周りが結果を心配して何となく違う方向に持っていく…ありそうなパターンですが、これでは「しっかり責任をもって選ぶ」という力はつかず、選択を人に任せたり、結果を人のせいにしたりすることに慣れてしまいます。結果もきちんと受け止めることで、選択の際にじっくり考えることや、しっかり意思表示することにつながっていくのです。

「しっかり選ぶ、しっかり決める、それを支える」、始めはちょっとしたことから、本人も周りの私たちも少しずつ慣れていき、「自己実現」に支えられた豊かな人生につなげてほしいと思います。

文責　村上 知之